



インドネシア

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日：2014年1月22日
- 調査場所：スラバヤ市ランカ地区
- 調査対象：アリプ(仮名)さんの一家
- 換算レート：100インドネシアルピア≒0.86円(2013年11月末)



アリプさんの一家



家族構成	アリプさん(仮名) (30歳) 妻のほか生後6カ月の娘の、家族3人
世帯収入	月額220万ルピアに残業代(おおよそ毎月50~90万ルピア程度)を加えた270~310万ルピアである。副業時には一日約10万ルピア
職業	コンサルタント会社のオフィスボーイ兼運転手(正規雇用)。土日は車付き運転手(副業)する時も

アリプさんについて

東ジャワ州スラバヤ市の出身である。高校を卒業後、レンタルカー会社の運転手を務めてきたが、2013年7月にコンサルタント会社のオフィスボーイ兼運転手として臨時雇いとなり、同年10月から職員として正規雇用になった。

家族は、妻のほか、生後6カ月の娘の3人である。現在は、妻の母親の家に居候している。アリプ氏の収入は、スラバヤ市の2014年最低賃金である月額220万ルピアに残業代(おおよそ毎月50~90万ルピア程度)を加えた270~310万ルピアである。

収入額だけを見ると、おおよそ年間収入3000米ドルという、BOP層の上限に近いところにいる。

アリプ氏は、オフィス勤務は土日が休みであるが、土日でも、要請があれば、自分でレンタカー業者と交渉し、車付き運転手として副業することもある。その場合には、1日で約10万ルピアの収入を得るといえるが、その頻度は決して多くはない。

子供のミルク代が重圧

アリプ氏の収入のほとんどは、娘のミルク代に消えている。娘は遺伝性のアレルギー症状があり、牛乳を受け付けられないため、医師の指示に従って、豆乳など牛乳以外の特別のミルクを与えなければならない。

このミルク代が、1カ月に250万ルピアもかかる。アリプ氏の残業代がなければ、娘のミルク代も賄えない。残業代を含めた収入の残りである20~60万ルピアで、その他の支出をやりくりしなければならない。他方、妻は娘の世話で一日中家にいざるを得ない。

このため、食事などほぼすべてを妻の母親に頼る生活となっている。妻の母親は、父親と一緒に元ヤクルトレディであるが、今は近所に2軒の小さな鶏そば屋台を経営している。妻の母親はこの家で寝泊まりしているが、父親は屋台の防犯のため、この家で寝ることはないという。



女兒用の特別の高価なミルク



この家には、アリプ氏の家族3人と、アリプ氏の妻の母親、従兄弟の5人で住んでいる。家は4畳半程度の広さの部屋が2つあり、奥の部屋にトイレ兼沐浴場がある。

昼間は、手前の部屋がリビングのように使われている。棚の中の物以外には、余計な品物はほとんど見当たらず、食事も床に皿を並べて食べる形をとっていた。



手前の部屋の棚。中央にテレビがあり、棚の中にはミニマートでもらった景品などが飾られている



手前の部屋と奥の部屋の境には冷蔵庫が置かれていた



奥の部屋のトイレ兼沐浴場



奥の部屋はロフトになっており、ハシゴを立てかけて上った上階がアリプ氏一家の寝室となっている。妻の母親と従兄弟は手前の部屋にマットレスを敷いて寝る。

← 奥の部屋のロフト。右に見える階段を立てかけて、上階の「寝室」へ上る

家電製品など

アリプ氏の家には、冷蔵庫、テレビ、洗濯機と、家電製品が意外に揃っている。洗濯機は妻の母親の所有である。いずれも、前に使っていたものが壊れたので、新しく購入したということである。

購入は全てクレジット払いである。冷蔵庫の返済は2014年12月に完済予定である。バイクについては、6月にクレジット払いが完済するそうである。昨年末、勤務先でボーナスが支給され、それで返済がずいぶん楽になったとのことである。



← 妻の母親が所有する洗濯機



→ 炊飯器も妻の母親の所有



家の入口では携帯電話の度数カードを売る

この家自体は、妻が子供の頃から住んでいた家である。長屋のような形で、隣近所が隣接して住んでいる。

表側では、プリペイド携帯電話用の度数カードや携帯のアクセサリを売っているが、これは妻の母親と従姉妹がやっている。



食事

前述のように、アリブ氏一家は食事を全面的に妻の母親に頼っている。妻が女兒の世話にかかりっきりになっているためであるが、アリブ一家の可処分所得が少ないことも関係している。

妻の母親へ食費として渡しているお金はない。ただし、月末に残金があれば、コメを一袋(25キロ)買って妻の母親へ渡している。

家の食事は、その時々の手に入るもので間に合わせている。野菜とご飯のほか、豆腐やテンペがタンパク源である。妻の母親の屋台の鶏そばが出されることもよくあるそうである。

台所は家の外、携帯電話の度数カードを売っているカウンターのすぐ横にコンロが置かれていた。食材のストックなどはなかった。



携帯電話の度数カード売り場の裏が台所



家庭訪問で出された妻の母親の店の鶏そば。食卓テーブルや机などは何もない



時間

アリブ氏の起床は午前6時頃である。まず、女兒を沐浴させて、時間があれば簡単な朝食をとり、なければ朝食を食わずに、午前7時頃にバイクでオフィスへ向かう。

勤務が終了して夜8時頃に帰宅し、夕食を食べる。途中で食べてから帰宅することもある。夜10時または11時頃に就寝する。妻は1日中、家で女兒の世話をしている。女兒はたいいてい夜7時頃には寝てしまう。

お金があれば5万ルピア程度を妻の母親へ支払うことにしているが、お金がない場合にはとくに支払う必要はないようである。今回の家庭訪問でアリブ氏が強調していたのは、正職員となって健康保険が適用されたことのありがたさである。女兒がよく熱を出すなど病院へ連れていかなければならないことがあるが、その際にも支払いをほとんど保険で済ませることができるからである。「正職員になってよかった」と何度も繰り返していた。



訪問後の感想：アリブ氏は、スラバヤ市の最低賃金レベルの収入とはいえ、これまで訪問してきて見てきた世帯よりも収入が多く、しかも正職員であることから、ある程度、豊かさを実感できる生活をしているのではないかと考えていたが、実際の生活は、かなり厳しい状況にあった。生まれて間もない女兒のアレルギー対策用のミルクへの支出で、全収入が消えてしまうほどの重圧となっていたからである。アリブ氏の妻の話では、アレルギー疾患を持つ子供のいる家庭では、同様の重い負担があり、その数は意外に多いようである。インドネシアでは、こうした親たちを支援する仕組みがまだほとんどなく、家族などの協力で何とか凌いでいるのが現状である。家電製品やバイクなどはほぼすべてクレジット払いで購入しており、その返済負担をかなり感じていたようである。家電製品の購入は以前のものが壊れたからということだったが、それを修理して使うというのは、内部基盤のブラックボックス化が進行してしまった現在、難しくなっているのだろうか。中古品や修理済み製品の市場はそれなりにあると思うのだが、それがBOP層にとってアクセスしやすい形になっていないということなのかもしれない。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。